

宇治川圏域河川整備計画(修正原案)に関する意見および質問

資料1-2

番号	頁	行	種別	質問・意見	対応頁	事務局回答・対応方針	備考
1.1.3 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する現状と課題へのご意見							
①	10	図	意見	「図1-8 圏域内河川の整備状況」中、人口集中地区の時点修正が必要。	P10	平成17年度を平成22年度(国勢調査データ)に時点修正。	委員会意見
②	10	10	意見	被災した河川の河床切り下げの緊急性について、その必要性を説くためには現在どのような応急措置であるのか、経過段階を明記した一文を加えると、より強く緊急性が伝わるのではないかと。	P10	弥陀次郎川の天井川に関する現状と課題で、「平成24年府南部豪雨では・・・大きな被害が発生した。」の後、「このため、欠壊箇所 <del>の</del> の応急復旧と監視体制の強化に努めてきたが、」を追記。	委員会意見
③	11	35	意見	河川によって安全度は違うけれども、どのくらいの雨が降れば浸水するのかということ、多くの方々は知らずにそこに住んでおられるというのが一つの課題である。水害への備えの啓発として、時間のかかる河川改修の整備状況を定期的に住民に情報提供することも含めるとよいのではないかと。	P11	「防災情報の充実・共有化を図り」を、「防災情報の充実と地域の河川情報などについて共有化を図り」に修正。	委員会意見
1.1.5 河川環境に関する現状と課題(水質・生物・水辺環境)へのご意見							
④	13	4	表記	水質環境を表現する用語として、BOD値の「75%値」は「75%水質値」とすべき。	P13	「BOD75%値」を「BOD値(75%水質値)」に修正。	庁内関係部局
⑤	13	図8	意見	「図1-10 水質の経年変化」のグラフを最新データで時点修正の必要有り。それに伴い、本文中の経年変化の説明も修正すべき。	P13	グラフにH22及びH23データを追加して時点修正。本文中、「経年的な変動傾向は無く、水質の改善は見られない」を「近年穏やかな水質改善傾向が見られる」に修正。	庁内関係部局
⑥	13	13	意見	「下水道は京都市及び城陽市でほぼ普及しており」とあるが、平成24年末では、八幡市と久御山町でも95%以上の普及率に達している。	P13	「下水道は京都市、城陽市、八幡市及び久御山町でほぼ普及しており」に修正。	庁内関係部局
⑦	15	11	表記	「笠取川では市営研修施設と一体化した利用が行われ」とあるが、「宇治市営」と管理主体を明確にすべき。	P15	「宇治市営」に修正。	庁内関係部局
2.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所に関するご意見							
⑧	37	19	意見	戦川、新田川、弥陀次郎川では流木が橋梁部を堰き止め溢れた水が被害を大きくした。砂防ダムが流木や水の勢いを抑える機能を発揮したかどうか疑問に思う。出水時の流木の問題は、山林をどう管理するかという点において河川部局だけではなく農林部局とも連携して取り組まなければならない難しい問題である。	追記	「宇治川下流右岸に流入する弥陀次郎川、戦川・新田川などでは、平成24年府南部豪雨で多量の土石と樹木が市街地まで流下し被害を大きくした。これら河川の特性を踏まえ、土石流や流木の発生と流下を抑制するなど流域一体となった取り組みについて地域や関係機関と連携を図る」を追記。	委員会意見
⑨	19	6	意見	「外来生物については、有用種や在来種の生態に悪影響を及ぼす」とあるが、必ずしも「悪影響」とは言い切れない。	表現修正	「影響を及ぼす」に修正。	委員会意見
3.1 出水時における情報提供と連携体制の強化							
⑩	39	11	意見	昨今の異常気象を考慮すれば、昨年のような豪雨が続けて発生することも十分考えられる。ハード整備が完成するまでのタイムラグを埋めるのがソフト対策であれば、もう少し緊急性や具体性が記載されていれば良かったと思う。例えば、観測機器の増設について設置の考え方や設置の場所を具体化したり、情報共有や意識の啓発、防災教育などにおいて地域連携を図る具体的な仕組みなど。	P39	住民意見の募集に際し、「表3-1 防災情報機器設置予定河川」を一覧表表示。「啓発イベントや防災訓練」を「啓発イベントや防災・減災教育、避難訓練」に修正。	委員会意見
⑪	39	表	意見	「表3-1 防災情報設置予定河川」の観測機器の増設が平成25年度完成の見込みとなった。本文中、「雨量、水位等の観測機器の設置拡大を図り」を「設置拡大により」に修正願いたい。また、表3-1を圏域内観測機器の位置関係を示す箇所図にしてはどうか。	P40	府民がインターネット等で閲覧可能な観測機器の設置状況を位置図にして表示(図3-2)。	庁内関係部局

宇治川圏域河川整備計画(修正原案)に関する意見および質問

資料1-2

番号	頁	行	種別	質問・意見	対応頁	事務局回答・対応方針	備考
その他文言修正等							
⑫			表記	「防災」とあるが、「防災」と「減災」を合わせた取り組みという方が府民にとってわかりやすい。		「防災活動」、「防災教育」を「防災・減災活動」、「防災・減災教育」に修正。	委員会意見
⑬			表記	「決壊」と「欠壊」の用語統一を図りたい。		1.1.3.【水害の状況】において、平成28年南山城水害では宇治川など大河川の堤防の破壊を意味する「決壊」、H24府南部豪雨では中小河川の護岸や堤防の浸食を意味する「欠壊」と使い分け。	庁内関係部局
関係機関や市町の要望事項							
⑭			要望	昨年の京都府南部地域豪雨により、市内の多くの中小河川が氾濫したことから、最上部までの早期完全改修事業の実施を強く要望致します。		被害の発生状況により整備区間を見直し本計画に位置付け。	市町要望
⑮			要望	検討にあたっては、既存の農業水利に影響が生じないように配慮されたい。	37	実施の際に、十分調整を行う。	庁内関係部局
府民意見							
⑯			意見	古来より、緑、水、川(河)等が整っており、江戸時代(徳川家)は、将軍家に、茶を献上し、宇治市エリアは、発展し、世界ブランドとなり、今、人口増加等災害等の問題もかさなり、一度源点に戻り、住民を定住して頂く、土地を確保し、バス、鉄道を利用して、働き方、生き方等いきがいの創造(福島大学商学部飯田教授著)のチャレンジが必要と思います。			府民意見